

令和6年度沼田まつり検討委員会（第5回）概要

□日 時：令和6年12月10日（火）午後6時51分～午後8時06分

□場 所：テラス沼田4階 防災会議室403

□出席者：○検討委員

星野市長（委員長）、井熊会頭（副委員長）、山田観光協会長、青地区長会長、
須田副会頭、今井副会頭、塩浦副会頭、須田商業部会長、

山宮経済建設常任委員長、鈴木商店街連合会長、山口経済部長、小菅専務理事

○須賀神社

栗原氏子代表、小池氏子代表

○沼田祇園囃子保存会連合会

高羽理事長、大竹副理事長、田村副理事長、小曾根事務局長

□意見交換会

（1）持続可能な沼田まつりの実施に向けた課題について

持続可能な沼田まつりの実施に向け、全体及び各団体の課題を共有するための意見交換を実施した。

〔決定事項〕

- ・沼田まつりの実施方法について、今後も継続して意見交換を実施することとした。
- ・次回意見交換会では、榛名神社宮司、氏子総代も意見交換会に招待することとした。
- ・熱中症対策行事实施指針の発出方法について、再考することとした。

〔主な意見〕

- 日程は動かさないことをお願いしたい。また、昼間の行事もあるため、子どもたちの夕食や休憩を考え、13時30分交通規制開始をお願いしたい。
- 今年は熱中症対策の指針へ対応するため、実行委員会行事が中止となった場合でも行事が実施できるように調整していた。結果として通常開催できたが、行事が中止になる事態だけは何とか避けていただきたい。
- 過密な日程のなかで行事の時間を他に移すということは無理だと思っている。
- 祭りは自己責任で参加していると思っているので、指針内容の再考をお願いしたい。
- 子どもたちが社会に出てくるきっかけの1つとしてお囃子やお祭りを大事にしたいというのが私の意見。沼田に居住、生活している子どもたちをベースに考え、お祭りをどう大事にしていくかが私たちに課せられていると思っている。
- 役員会でも地元町内と理解しあい、行動するということで意思統一している。伝統と歴史があることなので、時間と日程は慎重に対応してほしい。
- 神事として明治以降も実施しているため、日程は崩さず従来通りの形でお願いしたい。
- 8月3、4、5日は氏子と神様の約束事であり、それを守って続けていくことが伝統を積み重ねることになり、お祭りとしても非常に大切なことでもある。
- 町の人が少なくなってきており、毎年まんどを運行できるか心配しているが、まつりの期間中は市外に出て行った人が子どもを連れて帰ってきており、そのおかげで毎年ぎやかな祭りをできている。
- 曜日が人の集まり方に影響しているのは沼田まつりにはあてはまらないと思う。職業も多様化しているなか、土日開催にすれば参加できなくなる人もいると思うため、日の固

定開催が平等であり、結果的に一番続く実施方法だと思う。

- 強引に進めることは考えていない。ただ、近年の暑さと各町区長からの意見を重く受け止めている。8か町からの要望書も仕事が休めず参加できない各町役員が多いため、提出されたと認識している。従来通りの交通規制時間で開催することを望む意見もよく理解はするが、沼田まつりで熱中症による事故が発生した場合、市長が名誉会長、市役所職員も半分以上実行委員会事務局として従事しているため、市としての責任もあるし、各町の方にもかなり負担をかけることとなる。そのような理由もあり、今年は熱中症対策の指針を策定し、会場内の暑さ指数を測定したうえで判断していた。
- コロナなどの疫病の流行や水害、熱中症などの危険がある中で楽しいお祭り、伝統を守るお祭りを行うためにはどうするかということで検討を始めている。いつも通りできるならそれが一番いいと思っているが、人口減少や暑さのことなど、様々なことも少しずつでも考えていかなければならないと思う。
- 最近の区長会の経過として、土日開催にしてほしいという意見が本当に強い。市民アンケートを実施するはどうかという意見も出ているが、多数決をとるのはよくないということで検討委員会でも話されている。
- 沼田まつりで人手が足りなくて区長が一番困ることは、準備から片付けまでの5日間である。人口減少や働き方の変化があるならば、日程等も考え、祭りを盛大にし、市民が楽しめる開催にした方がいいと考える。
- 検討委員会での様々な意見は区長会にも報告しているが、報告を聞いた各町区長がどう判断するか分からない。区長会として町の意見アンケートを取ることで意見がまとまれば、区長会長としても反対できないので、やることになってしまう。
- 市民の思いとして分裂開催は望んでない、盛大に集まりたいという思いがあり、人口減少する中で次世代に引き継いでいくにはどうしたらいいかということで悩んできた。決して答えは決まっていない。3、4、5日の神事もよく理解をする。直接そのような話も聞けて非常によかったと思ってる。
- 熱中症で人が亡くなり、誰が責任を取るかという事態になった場合、各町の責任になるではないかと思っている。その辺のことも今後協議すべきことだと思う。
- 神事に関しては確かにその通りであり、基本的に変えることができないことであるのもよく理解している。今の検討は区長からの要望書もあり、従来の開催日程での参加を町が拒否した場合にどうしたらいいのかということで検討していることでもあるが、お互いにどこかで擦り寄っていかないと無理ではないかと考えている。
- 伝統は伝統として、思い入れる必要があると思うが、保存会や須賀神社の意見・要望だからということで、区の意見を見下していいかということもある。各町の区長と深く相談しながら3、4、5日という意見にまとまればいいのだが、そうはなっていない。
- 実行委員会や団体の意見もあり、様々なことを改善できるように検討しているが、簡単には結論は出ない。日程も3、4、5日の神事が基本にあることはよく理解をしている。それを基本に今までの沼田まつりは盛り上がっている。そういう面では非常に求心力のあるお祭りだと思う。
- 検討委員会では暑さと人口減少への対応を今後考えていかなければならない。沼田まつりを分断する決断はできない。それは市民も望んでないことである。検討委員会も悩みを率直に伝えるので、このような問題があるということで話を聞いていただきたい。市民の期待に応えるためにも、ぜひ引き続き一緒に悩んでいただけるとありがたい。
- この場にいる我々が主体となって、10年後の沼田まつりをやっているかということ、やっていないと思う。3、4、5日の日程でやることに対しては誰も文句は言わないと思う

が、何十年後にも沼田まつりを楽しみに子どもたちが集まれるような開催方法を全員で考える、前のめりになる検討をしていかないとならない。責任ある区長たち、須賀神社の代表の方、お囃子をやっている方が、真剣に数十年後を考え、検討していることを各町の方に少しずつ話しながら検討しないとならないと思う。

- 週末開催を希望する人に対して週末に変えると起きてしまう事態を示せないと、会議が進んでいかないと。仮に8月3、4、5日を週末に動かしたとすると、保存会や須賀神社の関係はどういった対応が取れるだろうか。想定されることを次の会議の時でもいいので、示してもらえればと思う。
- 私も何年か前までは3、4、5日でなければだめだと主張していたが、検討委員会を始めてから様々な意見を聞き、どこかですり寄って妥協しなければ沼田まつりを実施することもできなくなるのではないかと思っていた。日にちを変えると一部の行事が出ない。このままの日程だと今度は町が参加を拒否するといった言い合いになると思う。それを避けたいのが市長の考えでもあると思う。
- 人口が減少するなか、持続可能な祭りを検討するには、今回招待した皆さんの意見が必要だと思っている。どういう妥協点があるか、率直にこれはダメだと言ったようなことを協議いただければありがたい。検討委員会に対して厳しい意見をぶつけていただいても構わないので、ぜひ意見をいただきたい。
- 熱中症対策の指針だが、10時の段階で午後の判断をするのは無理があると感じた。実行委員会で判断するのではなく、各町・各団体に判断してもらうための判断材料としてもらうのでもよいと思った。定期的に観測点の数値を公表し、それを元に各団体に判断してもらうほうがやりやすいと思う。
- 今は警戒アラートが出たら危険となっているが、今回のような暑さでも昔は実施していたため、危険に感じなかった。指針の発表後に次々に人が倒れていたら大変だったと思うが、暑いという感想だけで終わったのでそんな感じなのかなと思った。
- 8月3日の縣社会合同奉迎を実施した際に活動自粛した町の区長から、自町が自粛するのに行事をやっている町もあるではないかといった話をいただいた。指針発表後の各町の行事への出席判断も難しかったと思う。
- 最近は祭り好きな人と参加しなければならない人との温度差が大きく、その温度差もあって日にちをずらす意見が出てきているのだと思う。上に立つ人はそのような意見もあることを加味しながら祭りを実施しないといけないと思う。
- 最悪の場合であるが、総意で土日絡めた開催となった場合に3、4、5日は神事をやってもらい、沼田まつりにはみこしを出して参加することは考えられるだろうか。また、3、4、5日で実施する場合でも、県の青少年育成条例をクリアできるならば、18時ごろからまつりを開始し、24時まで実施するなどの方法はどうか。
- 次回意見交換会は榛名神社の宮司と総代も呼んでもらいたい。榛名神社としてこういう意見もあるということを伝えたい。全員で仲良くやっていきたい。
- 昔の須賀神社みこしの熱気は凄かったが、今は担ぎ手が何人いるのかという事態になってしまっている。様々なみこしが出た影響もあるが、人口の減少が影響しているのも事実だと思う。日程を全く動かせないというのはよく分かるが、10年後の段階で多少変化をしても、沼田まつりがより盛大になってほしいと思っているため、今後も祭りを続けられる方法を共に考えていただきたい。
- 自分だけ楽しむのではなく、町との繋がりも大事にするよという意見が役員会の中でも出ていた。こういう会議があることで気づく面も増えると思うし、今後誰かが言わないと気づかないこともあると思う。

- 子どもたちが沼田まつりをしっかりやっていく意識を持ち、それを伝承していく流れを汲みたいといった意見も役員会で出てるため、少し長い目で見ていただきたい。また、役員はそういったものを大事にしたいという気持ちがあるため、ぜひまた検討委員会にもご招待いただきたい。
- 再来年になると開催日が土日を挟まなくなる。そこまで色々検証しながらやっていくという検討委員会の意見も出ているため、土日を絡まない日程で開催する際の皆さんの行動も踏まえ、検討していくということになるのではないかと思います。
- 学校統合されて子どもたちが減少し、その子どもたちがお祭りに参加するかどうかというところも問題なのだと思う。
- 今年と同じことをやる意識は無いので来年に向けて熱中症の指針も発表方法や各団体にどこまで判断を任せるかなどを再考し、少し変えていきたいと思う。
- 3、4、5日の神事は尊重しますし、できるだけ協力するつもりではある。先ほどまで出された意見はそういうことは可能なのかということでもあった。決して変な進め方はしないため、色々な可能性をご検討いただき、お話をいただければありがたい。